

令和5年度静岡市葵生涯学習
センター主催事業



「葵の御紋」と

着物文化

2023年

2024年

12/9(土)、1/20(土)、2/10(土) 13:30～15:30
(全3回)

対象：どなたでも20人

会費：1人 1,000円(3回分)

会場：葵生涯学習センター3階 33集会室

申込：電話で葵生涯学習センター(054-246-6191)までお申し込みください。

11/18(土)10:00～ 申込受付開始(申込順)

詳細は裏面をご覧ください

◆講師詳細◆

萩原敏司（きもの研究家/紺文シルク元会長）

京都・きもの学会や国立奈良女子大学、静岡大学、日本大学、東海道広重美術館、静岡リビングカルチャー、グランシップ「高松宮妃おひなさま展」などで講義、テレビ東京「なんでも鑑定団」のきもの鑑定士として出演など、きもの研究家として幅広く活躍している。



◆各回詳細◆

第1回 「神紋から始まる『葵の御紋』」

現在も京都「上賀茂神社・下鴨神社」の神紋として用いられている葵の文様。文永年間の賀茂祭絵巻に描かれた調度品にもその姿はみられます。徳川家「葵の御紋」は厳しく制度化され、とくに家光公の始めた「参勤交代」では、各大名の紋印、大名船の帆にも紋印が決められておりました。しかし、紋印を管理する制度が無かったため、町民が豊かになった時代には、遊女の小袖にも誉れだった紋章が使われるようになりました。

この回では、貴重な江戸時代の古書の画像をスクリーンに映写し、紋の変遷を解説します。

第2回 「駿府城・家康公に献上された琉球の品々」

第1部 家康公の宿駅伝馬制度によって整備された松並木、江戸と上方(大坂)を結ぶ「東海道」は、当時でも重要な幹線道路でした。慶長十五年(1610)には、琉球国王尚寧が「東海道」を通り駿府城に登城し、琉球の珍しい品々を貢献品に、大御所徳川家康に聘礼しています。琉球貴族の王女が着た美しい紅型染は、後の人間国宝・芹沢銈介の作品にもみられます。

第2部 慶長十五年(1610)、家康公による名古屋城築城の際、九州から参加した職人たちが着ていた珍しい絞り染が流行り、鳴海宿の「鳴海しぼり」として有名になりました。天保五年(1834)頃に保永堂から版行された、歌川(安藤)広重による浮世絵「東海道五十三次」(復刻版)を拡大して細部を映写し、日本橋からはじまる景色、宿場町ごとの風俗、着ているきもの模様などを解説します。

第3回 「豊かになった町衆の小袖模様」

寛文年間、経済が豊かになり、文化も盛んになった町衆の間では、菱川師宣の浮世絵「見返り美人図」に見られるような大きな模様も人気となり、豪華な金箔・刺繍などが流行しました。また、町衆に好まれた、尾形光琳の「光琳模様」は今日まで続き、海外の美術館でもコレクションとなっています。この回では、人気の江戸小紋のきもの、また、ファッションブックの流行からきもの模様と色などを詳しく解説します。

※都合により変更になる場合があります。

◆申込方法◆

お電話で静岡市葵生涯学習センター(054-246-6191)までお申込みください。

申込開始：11/18(土) 10:00~(申込順)

◆アクセス◆



静岡市葵生涯学習センター (アイセル21)

住所 〒420-0865 静岡市葵区東草深町3-18

電話 054-246-6191

HP <https://sgc.shizuokacity.jp/>

バス (JR静岡駅北口) 10番のりば
県立病院高松線「アイセル21」下車
駿府浪漫バス「アイセル21」下車

徒歩

JR静岡駅より徒歩30分

静鉄新静岡駅より約20分

※駐車場に限りがございます。公共交通機関でのご来館にご協力ください